

Regent

SEVEN SEAS CRUISES™

AN UNRIVALLED EXPERIENCE™

CRUISE

特別編集

セブンシーズ スプレnder

誰をも魅了する、 至極の 洋上宮殿

「セブンシーズ スプレnder」が2021年9月から運航を再開した。

完璧なラグジュアリー“リージェント体験”を
2020年初頭の就航直後の取材から改めて紹介する。

写真=マイク・ルワジ(Mike Louagie) 文=藤原暢子



SHIP DATA

船名:セブンシーズ スプレnder
(リージェントセブンシーズ クルーズ)
総トン数:5万5498トン
全長:224メートル/全幅:31メートル
乗客定員:732人/乗組員数:567人

デッキ4からデッキ5を結ぶアトリウム。Y字
になった階段をシャンデリアが美しく照らす。
モダンな“宮殿”を彷彿させる



プールデッキからスポーツデッキに上がる階段。中央には青いオブジェがあり、階段は鏡とガラスが美しい流線形になっている





1 踊り場もじゅうたん、ガラス、手すり、間接照明とすべてが美しくデザインされている 2 プールデッキの奥まった場所には誰もがゆったりとくつろげるソファを配置 3 レセプションのフロアにある「コーヒー・コネクション」。テラス席もあり、バリスタが入れるコーヒーがおいしい

壮麗な内装デザインでありながら 居心地の良さも兼ね備える不思議



メイン・ダイニング「コンパス・ローズ」。中央には鍾乳洞のような形の吹きガラスで作られたシャンデリアが

取

材やプライベートで客船に乗船するたびに、撮った写真は日付と船名を書いて、客船写真用のハードディスクに保存している。「2020年2月セブンシーズスプレnder」という名のフォルダを開く。一枚一枚写真を見ながら、「こんなに華麗で心躍る空間に、1年5カ月近く誰も足を踏み入れられなかったのか……」とため息が出た。

完成後、2クルーズのみを行ったこの新たな船は、今年9月から英国

一周クルーズを手始めに運航を開始する。世界的に厳しい時期を経て、世にも美しいこの船が本格的に乗客を迎える日が、やっとなるのだ。

就航前からかなり精巧な完成予想図を見ていたが、その優美さは実際に乗り込んでこそ真に体感できた。中型船に分類される約5万トンなのに、どこも広々としていて、すべてに余裕がある。大理石やチーク、高級資材を各所に惜しげもなく使い、すべてが美しいが、主張が強いわけではなく、バランスが実に良い。た

だ、時に想像もなかった装飾やインテリアに出会ってはつとずる。それをきっかけにいろいろなところを真剣に見ていくと、踊り場の手すりなど細部の細部に至るまでデザインされていて、洋上の宮殿という通称が改めてしっくりくる。

この時の取材は長年の親友であり、船専門の写真家と組んで撮影したが、お互い船内のあちこちに夢中になってはぐれてしまうので、落ち合うのは夕食の時というありさまだだった。

写真を任せられたので私は体験に重きを置くことができた。ライブラリーのさまざまな椅子の座り心地を試してみたり、ピカソやミロから現代アーティストの作品の数々(!)を堪能したり、500あるというクリスタル製のシャンデリアをていねいに見て回ったりした。

そんな体験の間には、入れたたのコーヒーや軽食が供される「コーヒー・コネクション」でひと休み。同船から外のデッキにも席が配置されたので、1日に何度となく利用した。上層階まで行かずとも、潮風に当たりながら休憩できるのがいい。

姉妹船「セブンシーズ エクスプローラー」とほぼ同型だが、内装の色味はこちらの船が落ち着いている。



上:「オブザベーション・ラウンジ」の入り口にある“光の花道”。通るだけで気分が上がる
下:柔らかな間接照明が印象的なライブラリー。リラックス用、読書用など椅子もそれぞれ

リージェントスイート

1室のみの「リージェントスイート」。
3方から海が眺められる船首に位置。
海はもちろんどの寄港地でもベスト
な風景が見られる



リージェントスイートのリビングルーム。使い勝手のよい配置なので、つい人を招きたくなりそう



総大理石のバスルーム

ベランダスイート



「ベランダスイート」(約28平方メートル)でも
このスペース。バルコニーも十分な広さ

ラ

グジュアリー客船の客室
としては最大の413平方メートルを誇る同船の

「リージェントスイート」。広いリビングやサンルーム、ダイニング、2つの寝室にプール付きベランダと迷子になりそうな広さ。270度のパノラマビューも壮観だ。取材時はリージェントセブンシーズクルーズのジェイソン・モンタギュー社長兼CEOが滞在しており、希望する取材陣を質疑応答の場として招いてくれた。グラランドピアノの演奏やバトラーがドリンクなどのサービスをしてくれる。20人以上が集まったが、まるで友人宅を訪ねたようなアットホームな空間と雰囲気だった。

このリージェントスイートは1隻に1室のみなので、予約が殺到しているという。ただ14カテゴリーある客室はどれも上質さと快適性の両方を備えている上、船内にはゆったりとしたパブリックルームや数々のユニークなレストランなどがそろっているのです、私なら正直どの客室でもご機嫌だ。

居心地のよい客室や広いバルコニーでのんびり過ごすのも悪くないが、他にもゆったりとくつろげる場所が多い同船ではつい歩いてしまう。



1「メリディアンラウンジ」でのアフタヌーン・ティー。カートには多彩なスイーツが 2 ジャクジーに入っていると「シャンパンはいかがですか」とウエーターが気を利かせてくれる。知らない乗客ともドリンク片手に話が弾む 3「カリナリーアートキッチン」ではクルーズエリアの素材や名物料理を習うことができるので、クルーズ後は自宅で腕を振るえる

インフィニティ・プールのあるスパや船首のオブザベーション・ラウンジ、おしゃやれなショップでの買い物など、楽しみは尽きない。

メイン・ダイニングと朝・昼用のビュッフェ以外に、4つのスペシャリティー・レストランがある。その上、本格的なキッチンスタジオ「カリナリーアートキッチン」ではクルーズで訪れる場所の料理を学ぶことができる料理教室（教室後はワインとともにしっかりと試食も）が行われるので、適度な船内歩きでおなかを空かせるのは至福の食タイムを満喫するスパイスのひとつなのだ。

就航したばかりの同船はその時すでに、食事の質はもとより、夜のエンターテインメントやオリジナルカクテル、ユニークな講座など、革新的なサービスを取り込み、極みを目指していた。約1年半の運航休止期間でさらに進化していることだろう。

就航クルーズの写真を見返していると、心に残ったのは細やかな気遣いかつ朗らかなクルー、そして居心地の良い「洋上の宮殿」で心から幸せそうな笑顔の乗客たち。この船が再びいろいろなクルーズエリアをめぐる、多くの乗客を笑顔にしていける日が再び始まる9月が実に楽しみだ。



セラーン・スパ&ウェルネス インフィニティプール

洋上最大のゆとりを確保

従来より、リージェントセブンシーズクルーズでは、贅沢でリラックスできるよう広々としたパーソナル・スペースを提供しています。世界で最も豪華な船上の客室では、快適さ、きめ細やかなサービス、プライベートな空間において、お客様の期待値を超えるでしょう。洋上最大級の広さを誇る当社自慢のバルコニー、洋上で最も少人数に制限された乗客定員、さらに広がるスペシャリティダイニングの選択肢、ラウンジやバーなどの公共スペースも、混雑とは無縁です。行列や人混みは、船内のどこにもありません。当社最新の船、セブンシーズスプレnderは、25年の経験と現代的なデザインを合わせた、ラグジュアリーを集大成です。

スペースの比較	セブンシーズスプレnder	他社のプレミアム客船
客室の数	375	1,523
お客様の数	732	3,046
バルコニーの面積	100%	85%
船体の大きさ(総トン数)	55,254	183,366
客室の広さ	28㎡~	17㎡~
乗組員:お客様の比率	1:1.5	1:2.4

EVERY
LUXURY
INCLUDED

旅行代金には下記のものが含まれます

選り放題の寄港地観光ツアー | 2~4泊の地上プログラム(一部のクルーズ限定) |
前泊ホテルパッケージ(コンシェルジュスイート以上の客室限定) | 高級ワインやスピリッツを含むドリンク |
バーとラウンジ | 船上チップ | スペシャリティレストラン含まれます |
ホテルと客船間の送迎(コンシェルジュスイート以上の客室限定) | 無制限WiFi | パレーランドリーサービス |

自宅でいつでも便利に、動画セミナーのご案内

短い日本語の字幕付き動画で、リージェントセブンシーズクルーズの全てが網羅された独自の構成。ご自宅などの快適な環境で受講していただくことができます。

アジア太平洋地域地区シニアバイスプレジデント兼マネージングディレクターのステイブ・オデルが、極上体験を体現し、完璧なラグジュアリーを象徴する新しい船、セブンシーズスプレnderを始めとする、世界で最もラグジュアリーな当社の船の旅へご案内いたします。右記のQRコードから簡単にアクセスできます。



詳細はお近くの販売店にお問い合わせいただくか、JP.RSSC.COMをご覧ください。